

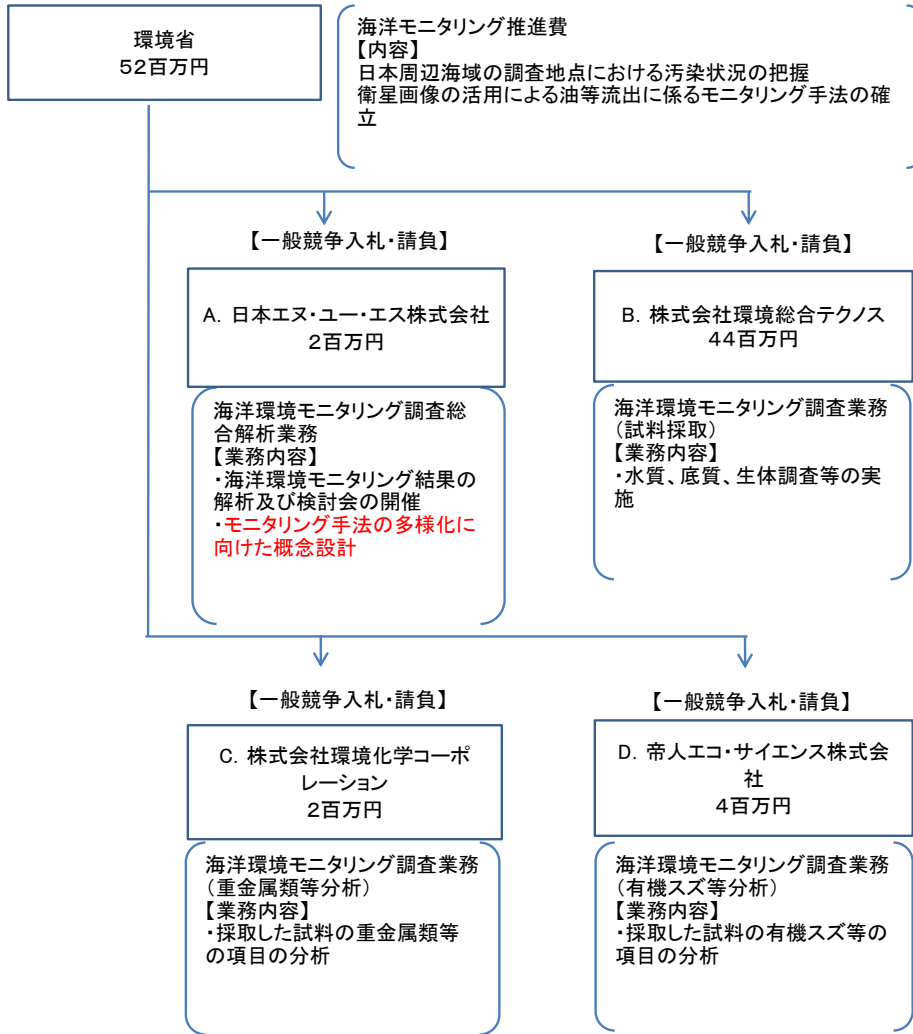
平成23年政事業レビューシート

(環境省)

事業名	海洋環境モニタリング推進事業		担当部局庁	水・大気環境局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	開始年度：平成10年度 終了予定無し		担当課室	水環境課海洋環境室		水環境課海洋環境室長	
会計区分	一般会計		施策名	3-3 水環境の保全 (海洋環境の保全を含む)			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	海洋基本計画			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	○海洋環境モニタリング推進費 海洋環境モニタリング調査は、日本周辺海域の調査地点における陸域からの汚染および廃棄物の海洋投入処分に由来する汚染状況を把握することを目的としている。海洋環境モニタリング多様化推進事業は、油等流出事故が発生した場合において、従来の船舶を使用した調査に加えて、汚染状況の分布を確認するための新たな手法(衛星写真の利用)を確立することを目的としている。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	○海洋環境モニタリング推進費(H10年度～) 水質、底質、海洋生物等に蓄積される汚染物質等を対象として、日本周辺の海域において、測線及び測点地点を設定し、6～8年で一巡するように調査を行っている。また、専門家による検討会を開催し、調査結果の検討・解析を行っている。また、衛星画像の活用による油等流出に係るモニタリング手法の検討及びシステムの構築に向けた作業を行っている。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位：百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求
		補正予算					
		繰越し等					
		計	65	50	71	74	74
	執行額	64	44	52			
	執行率 (%)	98%	88%	73%			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	本事業は、海洋環境の現在の状況を把握するために行われるものであり、本事業を実施することにより特段の成果が上げられるものではない。		成果実績				
			達成度	%			
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	年度において実施する測線数		活動実績 (当初見込み)	測線	1	1	1
単位当たりコスト	(63百万円 / 1測線)		算出根拠	平成22年度の海洋環境モニタリング調査の予算額			
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	環境保全調査費	74	74				
	計	74	74				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	-	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	-	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>海洋環境モニタリング推進費に関しては、各調査測線の時系列的変化を把握するには、測線を1巡する年数が短いほうが良いが、これまで調査項目の削減により効率化を測っているにも関わらず、1巡するのに8年かかっているのが実態である。流出油等にかかるモニタリング手法の多様化推進事業に関しては、陸域観測技術衛星「だいち」の後継機の使用を念頭に、より効果的・コスト効率的なシステム設計ができないかの検討を行っている。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>海洋における環境モニタリングの重要性は鑑みるが、既存予算の縮減に努めること。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>海洋環境モニタリングの重要性に鑑み、要求は同額とするが、既存の事業については検討会の取り止め等要求額を精査することにより予算の削減を図った。</p>			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p></p>			

※平成22年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.日本エヌ・ユー・エス株式会社			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	海洋環境モニタリング総合解析経費	2			
計		2	計		0
B.株式会社環境総合テクノス			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	海洋環境モニタリング調査経費(試料採取)	44			
計		44	計		0
C.株式会社環境化学コーポレーション			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	海洋環境モニタリング調査経費(重金属類分析)	2			
計		2	計		0
D.帝人エコ・サイエンス株式会社			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	海洋環境モニタリング調査経費(有機スズ等分析)	5			
計		5	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入 札 者 数	落 札 率
1	株式会社環境総合テクノ	海洋環境モニタリング調査経費(試料採取)	44	1	98
2	帝人エコ・サイエンス株式会社	海洋環境モニタリング調査経費(有機スズ等分析)	5	3	68
3	日本エヌ・ユー・エス株式会社	海洋環境モニタリング調査総合解析業務	2	2	12
4	株式会社環境化学コーポレーション	海洋環境モニタリング調査経費(重金属類分析)	2	3	44
5					
6					
7					
8					
9					
10					